

MCN 支部とダルマスタリ学校訪問

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

この夏、8月にネパールに帰国した際、ドルカ支部一ヶ所だけになりましたが、ミランクラブネパール支部訪問、ダルマスタリ学校訪問を行いました。

昨年発足20周年を迎えたミランクラブネパールのドルカ支部はドルカ郡の中心チャリコットにあります。カトマンズから東約135km 海拔1,550mにあり、車で約5時間かかります。乗合バスもありますが、丸一日近くかかってしまいます。途中、ミランクラブの里子たちも住むパドガオン郡、カブレパランチョック郡も通ります。

チャリコットは人口約7千人の、ヒマラヤ山脈が美しく見える、のどかな小さな町です。住民の多くはグルン族とネワール族で殆どは商業と農業で生計を立てています。小さい町ながら宿もあります。チャリコットへ向かう途中の車窓からは雨季が終わったばかりの緑豊かな木々や棚田を見ながら、排ガスや埃だらけのカトマンズと違う爽やかな風を受けてのドライブとなりました。

ドルカ支部のアドバイザーはブペンドラ・パクリンさんです。彼は商売でカトマンズとシンドゥパルチョック郡、ドルカ郡、ラメチャップ郡を行き来しています。支部発足のきっかけは商売で移動することの多い彼からの学校へ行けない女子が多いという地域情報によるものでした。支部はミランクラブの主旨に沿ってブペンドラ・パクリンさん以外は現地の女性たちで構成されています。支部長、副支部長、事務局長、会計、会員となります。全員がボランティアで関わっています。今回は副支部長サンギタ・パクリンさんから、いろいろとお話を伺いました。

支部の里子はチャリコットから徒歩で近くは30分、遠くは1時間半かかる所の5つの学校に11名います。奨学金は支部スタッフが交代で毎月学校を訪れ、子供たちに直接手渡しています。チャリコットか

らは、バスがないため移動手段は徒歩となります。

ミランクラブの支援のお陰で子供たちは勉強を続けることができ、学校の先生からも支援がなければ学校へは来られない家庭の子供たちと報告されています。

また支部では最近、ミランクラブネパールとドルカ支部の名前入りのノートを作り里子たちに配りました。

こうしてまとめて発注すると、部数にもよりますが、紙の枚数も増え、費用も市価より安上がりだそうです。普通36頁のノートが40頁で売られていて、支部考案のノートは、カトマンズの業者に発注した場合、40頁で、38頁になるそうです。ミランクラブの活動も分かってもらえ、里子の向学心にも役に立つのではと評判も上々だそうです。これの費用は里子たちの奨学金の中からノートを買うはずの分を全員分まとめて使ったとのことでした。

そもそも、この発案はカトマンズと地方を行き来しているアドバイザーがいたからこそのもので、地方では品質の良いノートを買うのが簡単ではないことや、ミランクラブのロゴ入りのものを作っても安くできることから始めたそうです。

今回は道路事情により到着が遅れ、支部に集まって待っていてくれた里子たちには会えませんでした。また訪れる機会があったら、是非会ってみたいです。 続く..



出迎えてくれた副支部長(右)と立ち話